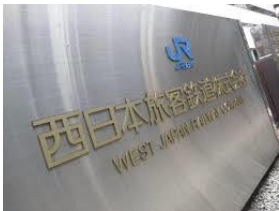


JRなど運賃割引推進ニュース

2020年1月9日(木) No.78号 発行：全国精神保健福祉会
交通運賃割引全国運動推進PT 座長：奥田和男 事務局長：堀場洋二
連絡先携帯電話 090-3480-1541 Eメール horiba@sc.starcat.ne.jp



近畿ブロック JR西日本と交通運賃割引について要望協議



12月12日、15時から16時まで国会請願を受けてJR西日本へ「交通運賃の割引を求める要望書」を提出し懇談要請しました。近畿ブロック6府県代表6名と大阪から「大精連」2名、奈良から「なゆたの会」1名の当事者が参加しました。JR西日本は、営業本部旅客運賃制度担当の平塚康雄氏、総務部渉外担当の堤えり子氏が対応しました。

「現時点では、国の助成が必要との考えに変わりはない」 「皆さんの声は、JRの集まりの場で伝える」

懇談要請では、倉町大阪府連会長から要望書を提出し、交通運賃割引全国運動推進PT奥田座長から要望の趣旨について説明しました。

《趣旨説明の概要》



- ◎ 「国会の請願採択」を受けて、全国精神保健福祉会（以下、みんなねっと）は全国でJR各社への要請を行っている。
- ◎ 近畿ブロック家族会は2016年4月に要望に訪問した。今回は2度目の訪問である、請願採択は、精神障害者を運賃割引から除外しているのは間違いであり、平等に割引の対象にするべきであることを国会議員の総意として示した。
- ◎ みんなねっとは2014年6月の定期総会で身体・知的と同等に交通運賃割引の適用を求める全国運動を開始し、最初に精神障害者の生活実態についてアンケート調査を行った。一般企業での就労はアルバイトを含めて5.7%、無年金者は19.7%で所得が低いため外出を控えている実態が明らかになった。
- ◎ その後、国会請願署名の取組みと並行して交通事業者への要望に取り組み、バスや中小の私鉄では大きく前進した。また、精神に適用を拡大すると減収になるとしていた大手私鉄の西鉄が、アンケート調査を実施して精神障害者が利用を控えている実態を知り、精神障害者への適用に踏み切ってくれた。そして、実施内容も100kmの同伴の条件もなく、全ての手帳所持者を対象にした素晴らしいものであった。JALとANAの航空事業者もオリンピック・パラリンピックの開催を前に国のユニバーサルデザイン行動計画に基づく働きかけを受けて精神への適用に踏み切ってくれた。
- ◎ このように、精神障害者への運賃割引は避けて通れない状況にある。また、100km未満の同伴条件は身体や知的からも現状にそぐわないと見直しの声が出ている。精神障害者の社会参加のために、JR西日本においても社会貢献をしながら収入の増加を図っていただきたい。



《JR西日本回答要旨(営業本部:平塚氏)》

- ❖ 請願採択の状況も含めて国交省から、精神障害者への運賃割引適用の要請を受けている。
- ❖ 現時点では、事業者負担ではなく、国の助成が必要との考えに変わりはない。JRは6社がネットワークとして同じルールでない困る。民鉄とも一緒に考えていく問題である。
- ❖ 割引の同伴の条件は、本人一人では旅行が困難であり、運賃が2倍になってしまうので同伴者を含めた割引になっている。基本は介護の方である。
- ❖ アンケートで利用を控えている実態や割引が実施されれば利用を増やしたいなどについては、私たちの認識が足りていない、考慮していく…と答えました。

《各参加者からの意見概要》

- ◆ 高齢になり、運転免許証を返納した。息子が50歳になる。自動車で通院の送迎をしてきたが今は電車で同伴している。閉じこもりがちであるが、運賃が半額になれば気持ちが前を向く。明日は我が身と考えてほしい。
- ◆ 「シルバーシートはお年寄りに」「構内での禁煙に」「社内でのスマホの使用は控えて」の協力を求め、一方「精神障害者にも運賃割引の適用を」については協力できません。JRは「協力をお願い」をどのように考えているのですか。
- ◆ 30歳後半で発病、今、障害年金で暮らしている。週1回、部屋の片づけにヘルパーさんに来てもらっている。しんどい時、外出できない。水泳で運動すると体調良くなる。1人で行けないのでガイドヘルパーをお願いしている。2人で往復800円かかる。半額になれば助かる。電車の中から外の景色を見ると気持ちがよくなる。割引があればと思う。
- ◆ 娘が神戸で震災の時に発病。外出ができず、引きこもりの人多い。訪問看護ステーション作りに取り組んできた。利用する人多い。運賃割引はどうして精神だけ除外なのか。JR6社のどこが主導権を持っているのか。
- ◆ 精神は外出できない当事者が多い。割引によって外出が増え、回復につながる。社会貢献活動としてJR西日本から他社へ働きかけを。
- ◆ どうして精神だけが除外なのか、企業は、疑問に思わないのか。
- ◆ 親元を離れて1人立ちして大阪へきた。親が名古屋に住んでいる。割引によって、親元へ帰りやすくしてほしい。



最後に平塚氏から「わが社だけで決められないことが多くある。今日の話について、この場で答えられないが、集まった場でも伝えていく」。参加者から「また、お会いして話し合しましょう」と再度の話し合いを求めて懇談要請を締めくくりました。

❖❖ 精神障害者の交通運賃割引適用の意見書 ❖❖

名古屋市議会で可決!!

名家連は「全福連(みんなねっと)理事会の決定」に基づき、昨年9月10日に市議会各会派を訪問し意見書原案を持参して採択への懇談要請を行いました。9月議会では意見書受付の提出期限が過ぎていた関係から11月議会において原案通り、12月6日に全会一致で採択されました。(文責:事務局長/堀場洋二)

